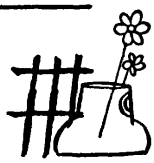
巻頭言



ソフトウェア流通機構の確立を

佐　川　俊　一†

近年のコンピュータ関連のハードウェア技術の発展は，まさに目を見はるばかりである．IC 技術の発達から，マイクロコンピュータ，オフィスコンピュータなど小型機の利用が急速に拡大してきている．これらのコンピュータが更に広く利用されることは，その持てる多様な可能性からいって，社会的に計り知れない効果をもたらすものと考えられる．

現在，急速にこのレベルのコンピュータの需要が伸びてきた最大の理由は，ハードウェア価格の急激な低下によるものであろう．安くなったといっても，過去の価格に対する相対的なものであって，ユーザからみて絶対値が安いとは思えない．用途の可能性からいえば，更に安く使いやすい機器になる必要がある．

このためには，ソフトウェアのコストをいかに下げるかが問題であろう．これまで，ソフトウェアは，導入したユーザに合わせて作成されるのが普通であった．最近，小型化の進展につれ，メーカごとにアプリケーションソフトウェアのパッケージ化はかなり進んできてはいるが，全体的にみればまだ一品料理的な処理が行われているのが大半ではなかろうか．また，メーカのパッケージ化したソフトウェアも整備されつつあるとはいっても，使わせるというよりハードウェアを売るためのアクセサリ的補助手段の域を出ていない感じがある．

これまでソフトウェアは目的に合わせてつくるというイメージが強く，その作り方をいかに能率化し容易化するかに力が注がれてきた．その努力は，ソフトウェア工学などの分野として次第に形を為しつつあるといえる．しかし作成の仕方が今よりも容易になったとしても「作成する」ということは決して容易でもなく安価でもない．特にこれからのユーザとなる大多数の潜在的ユーザにとっては，なおさらであろう．

ソフトウェアの単価を下げるには，作成したものを多数のユーザに使ってもらうことが必要である．現在，パッケージ化は進みながらもうひとつ大きな変化がないのは「流通」を保証する機構が未熟だからではなかろうか．流通が保証されることにより，メーカ側にもユーザ側にも大きな利益が期待できよう．

ソフトウェアの流通は単にコストダウンという観点ばかりではなく，システムやソフトウェアの生長のために，経験の蓄積と共用化という観点からも望まれるのではなかろうか．開発手法的方法論についての経験は，ソフトウェア工学の形成によって，その中で蓄積されようとしている．しかし，特定の用途のためのソフトウェアを作成することによる経験の蓄積は，それを作成し使用している特定の人々の間で行われているにすぎず，同種の業務処理をしている他システムには伝わりにくい．ソフトウェアの流通が確保されることによって，コストダウンばかりではなく，多くの利用者の経験を蓄積して品質を高めることも期待できよう．コンピュータが身近になればなるほど，ソフトウェアの信頼性，利便性も要求されてくる．ソフトウェアの円滑な流通ができるような仕組み，流通機構の確立が痛切に望まれるのである．

もちろん，このためには多くの問題を解決していかなければならないであろう．しかし，ソフトウェアを安く，信頼性の高い，便利なものとしていくためには，まずユーザが安心して利用できる市場を早急に確立しなければならない．勿論，問題点は数多く想定されるが，それらは実施の過程でひとつずつ解決していくしかないのではなかろうか．それがコンピュータという大きな可能性をもった装置を社会の中に広め，発達させる基礎となるものと信じている．

（昭和56年6月5日）

† 本会理事　新生電業株式会社